

大正十年四月九日

市政に就いて

(未定稿)



目次

市政の現状	一
東京市と特別市制問題	八
労資協調と自治の本尊	十一
東京市の自治に對する余の期待	十八
浪費政策に對する後藤式節儉法	十九
調査機關設置の必要	二十五
余が就任の覺悟	三十一
社會局に就いて	三十三
道路局に就いて	三十五

四十三 三十五 三十一 二十五 十九 十八 十一 一頁

市民に要する了解	四十五
名譽職と小學教員	四十九
任免に關する方針と所見	五十一
健全なる市役所氣質の養成	六十一
小學校職員の進退に就いて	七十
小學校の増設に就いて	七十四
東京市の經費問題	七十七
浪費政策改善の第一歩	八十
東京市の財源問題	八十五
糞尿處分に就いて	九十三
應急策	九十八

020317

四十五 四十九 五十一 六十一 七十 七十四 七十七 八十 八十五 九十三 九十八

糞尿問題に關する一奇縁
結論

以上

百六

市政の現状

東京市の市政の全体を一言して評すれば、互に聯絡を缺き不規律を極め浪費政策の弊を隔つて居る。而も將來の爲めに経綸を立つべき調査を缺いて唯一時を糊塗するに過ぎざる状態に在るのである。而して全般の東京市の市政が不統一を極め、且つ互に聯絡を缺くを生ずる弊害は種々の方面に於て現はれてゐるが、其著しいものは

一 市吏員と市會議員との疎隔、甚なり、は市長と市會議員とは市吏員たる互に

二 相對峙して、或時は強と敵國の如き感を以て互に嫉視してゐたことである

是れ自治体として有るべき現象であつて、或者は此隙を乘し不正の結託を爲すに至るのである

(二) 市役所内の各機關が互に必要な聯絡を缺いて居る爲めに生ずる弊害は、例へば地下埋藏物の系統の如きも頗る乱脈であつて、上水課と下水課及電気局の間に設計上の交渉もなく、又た着手の上に开会もなく、權無術の蒞いた種を烏かほち

くる底の愚心を敢てみせ、即ち道路課の立場から言へば同課の事業は悉く此等の他の課のために妨けらるゝことになるのである。上下水の兩課から論ずれば又た道路課のために同一やうな事業上の妨害を受けることもあるのである。又、電氣、電信、電灯、瓦斯の如きに至つては市役所外のことであるから、聯絡交渉、お金を一層甚だしく缺いて居ることは茲に言ふ必要もない。

三 之に對して世人も當局者も道路と電氣とは互に相殺するものであると思考して遂に慥ま

四 る取柄と成つた。併し此等の不統一と聯絡の缺如とは悉く浪費政策に陥る原因と断言して憚らないのである。

(三) 市内の各區役所相互間、並に市役所内の各機關の聯絡交渉の如きも頗る不完全なるのみならず、甚だぎは相互の間に於て他の機關の失態は良ち自己の利害と關係を及ぼすべきことを忘れ、之を對岸の火に火視を笑を以て之を迎へてゐるか如きものもある。如何に聯絡缺如の弊一に茲に到るかと思はしむるのである。

(四) 監督官廳の監督が法令の上に早くして欠
点あることは年来の弊害であるが、其法令上
の監督すらも不完全なるを免れないのが昨今
の形勢である、東京府と東京市は須らく一致
の態度を執るべき筈であるに拘り、屢々
相軋輾して矢張相互相殺の弊に陥つてゐる、
これは唯監督官廳と被監督者たる自治体
の間に於ける疎隔に止まるならは不同に附する
も亦可なりであるが、浪費政策に陥るの弊を
奈何せんやである、殊に東京府の地方税支
出額は大部分東京市民の負擔に歸する

五

六
のである、東京市は市自身か浪費政策に
陥りつゝ尚また監督官廳より東京府か之
を矯正せんとは為さずして却て之を助長せし
てゐる、是を東京府自ら其主動体と成つて
東京市を以て之を動的に之を引受けしめ、
東京市を以て之を避くるに違なからしめ、
此事たるや歴々として之を事実の上で徴すべき
ものがあるものである、勿論既往に屬することは
數て咎めないが、將來の事を論するならば
例へば今回の平和博覧會の計画の如き市
此恨みなき能はずである、

余は茲ニ其計畫豫算の編成の可成を論ず
るものにはなりしか、蓋し府の豫算の通りて実
行覺束ないことは今より分かり切つたことと
あり、随つて若し此計畫よりして假に數百萬
圓の損失を生じたといふならば、何人か之を
負擔するの責に任するものあるか、蓋し其場合
は東京市民の負擔に歸すべしことは茲ニ
論するまでもないのである、此點に就いて東京市
會議決諸君中には既ニ思ひを改して展る者も
あり、東京市選出の府會議決に至つては
更に顧慮する者もないのである、府會の決

議として合法的のものなるが故に、市民は之を
賛成すべく、又其負擔に任すべきものである
と云ふかめき態度を執つてゐる、これ實に
現在の形勢である、併し此形勢から一歩及
すれば、市府の間ニ大なる弊害を生ずるこ
とは懸念し得るものである

市政の現状に對する余の所見

も七縣統とか統一とかの不備不完全を感
得する、心意上の程度は、各自の存する信念
の厚薄如何に依つて主觀的相違はあるもの
である、換言すれば縣統統一を理解する者

目の智識上の程度に依つて相違はあつたものであ
る、文明國の都、市の現代的オルカニザチオンは
斯くあるべきもの、聯絡は斯くなければならぬ
と云ふ理想、信念の深淺厚薄に依つて、聯絡
統一の不備不完全の批判の程度も亦自から
涇庭を生ずるのである而して金の常に懷抱する
所の現代的オルカニザチオンに對する信念、
聯絡統一に關する所の理想は實は界近
低級のものである、然るに其界近低級なる
不肖が觀察し、如上の不備不完全を聯絡
統一の上に著見するのである、若しこれ高邁達

十 識の士が觀察せられたるは果し如何なる
新案を下さるのであるか、蓋し其所感は不肖
のそれよりも更に峻烈なるものがあるに相違な
いと信するのである、此點に就て深く各位の
諒解と考察を求むる次第である

東京市と特別市制問題

債、東京府と東京市との関係、純いては軍
来の懸案と成つてゐるのであるが、之を約言す
れば特別市制の問題と附帶してゐる所のこ
のである、而も特別市制の問題は大部分は是
亦制度論である、唯、一部分は經濟論を、已む
を得ず事實上に挟んで来るのであるが、是が
爲めに二重監督は不可であつて、直ちに内務
大臣の監督に属するやうにするが、良いと言
つてゐる、余は之に對して敢て反對はしない、
併たぐら唯監督を変へたかといふ言つて果

十一

十二

としてどれだけ利益のあるものか疑ひを存す
るのである、それよりは寧ろ市の經濟的發
展と財政的效果とを主眼とする制度改善を
圖つた方が良策ではないかと考へる、現に東京
府と東京市は二重の施設をしてゐる、甚た
しき、は競争的に施設をしてゐる、而して
之が爲めに生ずる負擔の大部分は東京市民
に掛つてゐるのである、即ち相互の競争に依
つて効果を納むるよりも、寧ろ其弊のみを
助長して浪費政策の弊害の渦中に陥つ
てゐる、是れ皆な一般の目撃する事實であ

るに拘らず偶ま之を口にする者があつても唯
一場の屠話として空しく聴流し而も此爲め
に如何い莫大なる損害を各自が被つてゐるか
と云ふ點に付いて、的確に考へ慮する人が識
者の中いすらも尠ないのは寧ろ不思議な
現象である、吾な言ては駭目だと思つて愛想
を盡かして黙つてゐるのやも知れないが、兎
角東京市の「ポンチ」を描いて見たならば、
恰も底無し袋に金錢を投ずる焚火を執り
たふつら、市長も市會議員も市民も其も
底に締り力ないこと、氣附ぬのと同じで

ある、吾な氣附いても底を縫ふの意なきもの
の如き繪が出来上るのではあるまいか

今現に六大都市の特別市制に關する問題
がある、余は曩にも言ふ如く敢て是れは反
對をするものではないが、東京市民として
自覺の足らざるものである、又東京市民自
身の利害を言ふのでなくして、東京は帝
國の首都なりといふ點から考へて見ると、
此六大都市共同運動に依つて同一制度の
下に立たんとすることは、東京市民の爲めに
立法する人々の首府の自治なるものが、國と

如何なる關係あるか』就いて考慮の足らざるものあることを證明するものではあるまいか、現に此計画などに就いては既に業に國庫補助の率を同うして居らぬと云ふことは、今日の如く都市研究の普及しない時代、於ては、經國家が達見以此制を定められたりと言はなければならぬ、又今日の如く都市生活の不確實なる時代、於ては、更に都市の階級に従つて其制を異にすることも理由があることである、豈に帝に時代と場所とに従つて其制を異にするること

十五

其が必要なる計りではない、指定に就いても亦區別を置くことが必要でなければならぬ、即ち首都と他の大都市との間に於て區別することが必要である、而も之を區別すべきものであることを朝野の間、宣傳するのことも必要である、諒解せしむることが必要である

之を要するに人口百五十萬以上、廣京二里以上、渉る所の大都市中、於ても、東京の如きは人口二百十七萬を算ふる首都たるに於て、他の大都市、比し殆ど十倍の人口を有し、

其年額豫算亦億を以て算ふる所の此東京を、之を他の都市と同一制度の下に置くが如きは、經濟の上から言へば若輩者の金失ひと同一結果に陥ることは明かである、これは現に最近實驗して居ることであつて、而も其隙に乘じ職業的政治家が横暴を逞うして市民に害を及ぼしてゐる、人或は之を以て政黨の横暴なりと評する者はあるけれども、唯政黨の横暴のみから来たのですなう、實に市民が無頓著なることも亦其因を成してゐる、

十八 由来自治其物は官權若くは黨派間の壓制を蒙らざる所の獨立組織であると云ふ以上は、官權の壓制を蒙らざることも黨派の蹂躪を受けることも、総て自治体其物が悪いのである、従つて官權や黨派のことを彼是れ言ふべき譯のものでないと思ふべき

勞資協調と自治の本尊

又一方から言ふと今日は資本と勞働の問題が盛んである、けれども眞に自治的生活の徹底したる都市殊に首都に於ては、此等の無用且つ不經濟なる爭議を避け、兩者を

て圓滿なる融和の生活を為さしむること
出來るのである、随つて彼の國家的法令の
權威を本尊とした所の官治とは全く
其精神を異にする別箇の本尊、即ち勞
資の諒解と協力とを本尊とする所の自治
を建立することが最も必要な事ではないか、
そこで此意義に於ける自治制度の改良と自
治制の協力とを促進し、以て自治制度に對
する浪費政策の蹂躪と、官治の壓迫を防
止することが刻下の急務であると信するのである

十九 東京市の自治に對する余の期待

十九

二十

東京市の現状は恰も靴を提げ取除け無事を取
りに来た連中の集合した殖民地と同様である
から、之に向つて到底自治を望むことは出來な
いとか、或は之に對して自治制の効果を擧げ
んことを期待するは本に縁つて魚を求む
るの類であるとか、或は又東京市民は全然自
治の能力を缺けてゐる、東京市は由來自治
がなない、東京市は「デモクラシー」がなない、官権に
適ふ者計りである、單り東京と言はず日本
の臣民は元來「デモクラシー」のなないものである、と
云ふが如き議論も往々聽くのであるが、併

たゞうら三千年の歴史を有する日本國民、三百年の歴史を持つ所の東京市民は過去に於て專制政治の下に支配せられてゐたとは言へ、文化發達せる聖代の今日に於て「デモクラシー」のないことはたゞ、自治即ち「オートノミー」のない筈はたゞ、即ち東京は日本帝國の「デモクラシー」の中心であり、同時に又た日本帝國の自治即ち「オートノミー」の中心である、随つて「デモクラシー」若くは「オートノミー」の大學校を建立すべき地とは東京の外にないのである、而して余は此大學校に入つて自治を學びつゝあるのであ

主

る然るに余は偶々官僚出身であることが人目を惹く爲めであるかは知らぬが、未だ自治の眞體を學ぶことを得ず又た其教へを受けざるに先つて、却て官僚の惡聲若くは其糟粕の殘留せるを見て覺えず耳目を蔽ふやうを得ざる状態に在るのである、是れ蓋し余の修養の足らざる点もあらう、若しそれ思ひを潜めて詳細に觀察したならば必ずや東京市にても日本「デモクラシー」、東京自治の眞體の取つて以て學ぶべき材料が在せるを發見するであらう、又市會議員

主

其他の市民中、余の之を教ゆる先覺者も控へて居らるゝことであらうから、余は之を師事して其教へを請ふんと欲するものである

去りたゞの一言する如く、底無しの袋に金を入るゝが如き浪費政策を第一に除去するに非ざれば、假令如何なる新經綸を以て之に臨むと、出費徒らに多くして效果毫も擧げらるゝものである、而して新經綸が立たなければ立たぬ程浪費は愈々多くして效果は益々少きの理である、然らば之

を處するの途如何と言へば即ち底無しの袋に底を作ることが何事の爲め務である、而して之と同時に新經綸を立てるが爲め、一方に於て完全なる調査研究に従事すべき機關を設置すべき必要がある、斯の如くして始めて經濟的且つ科學的に諸般の事務が處理せられ、而も其效率が又大に増進するのである、此事たるや談何ぞ容易なるの國はあるが、余を以て之を見れば從來世人が注意を此点に拂つたものは少ないやうである、現に市に於て然りではないか、國に於

ても亦然りではないかと余は思ふのであつて、此事も一言して茲に教を請ひたいと考へるのである

浪費政策に對する後藤式節儉法

即ち個人の生活に於ても、會社の營業に於ても、將又自治生活若くは國家生活に於ても、悉く其軌を同うするものがあるのである、先づ之を會社の營業と稱して見れば、如何なる會社と雖も浪費の絶對でない會社は無いのであつて、唯其浪費の率が一割止まる會社ならば、其會社は非常に整頓したる會社

三
五
三
と云ふなければならぬ、或は極めてエキザクトに評したならば、五割の浪費は皆なあると言つても過言でないかも知れぬ、而して浪費が五割以内なつた所のものが利益を産むのである、余は敢て哲學者の辯論倣ひ人間は無用の事を為して喜んでゐるものであると云ふが如き見地から論ずるのでなくして、事實上の立脚点から言ふことであるから誤りはたゞいと信じてゐるのである、諸會社が五割の浪費あるに際し、之を三割止めんとして、經費を節減すれば其

目的を達し得ると思ふは大なる間違ひである、官廳でも會社でも能くやることであるが經費節減は浪費節減とはならぬものである、茲に百萬圓の經費を支出する會社があるとする、其中五割が浪費に属するものとすれば、三割の經費節減をして七十萬圓としても、矢張七十萬圓の浪費の五割は附纏ふて五七、三十五萬圓の浪費は伴ふものである、浪費に弁錢を加へずして唯經費節減を事とすれば國家の政治ならは産業が萎靡する計りである、會社の經營ならば當

主

元

業が不振に陥るのである、斯の如き節減の仕方は眞の節減でも節約でもなから、昔の言葉で言へば奢番であるかも知れない、

それであるならば何を以て此浪費を矯正するかと言へば、唯科學的職務と科學的調査とに依つて其能率を向上せしむるの外に途はないのである、前例の會社の場合、於ては科學的職務と科學的調査とに依つて能率を増進し、會社の利益が増加したといたうらば五割の浪費は或は四割にも三割にも節減せられたと同一の結果を來たすの

てある、然るに能率を増進することを圖ら
ずして唯浪費のみを節減すれば、成程時
は節減もヤレヤウが又忽ち元の通りに増
加するものである、それ故に科學的調査研
究、金を費やすことは經費節減の根本
義であつて、此以外は何もないのである、神
算鬼算といふことはあるが、人間で出来る謀
は如上の外に何物もないのである、あれ實に
不肖後藤式の節候法であつて而も現代式
節候法の要求する所、適應したものと
信ずるのである、世界大戦争の開始より

終熄する迄、先進國に於て承認せられ
訓練せられた所の節候法なるものも畢
竟此以外に出でぬものである、

調査機関設置の必要

是に於て余は果に大調査機関設置の議を提唱した、然るに一般國民をして之を諒解せしむることは頗る難事と爲つたのであるが、幸にして我賢明なる内閣諸公並に貴衆兩院の議員諸君は余の微衷の在る所を諒として既に賛同せられ、又た是より賛同せざることを信ずるのである。

併し今や現代に於ては社會的活動に關し指導階級を以て居る所のものは内閣諸公議員諸君と云ふか如き肩書のある賢明なる識者あり

三

も、更に偉大なる見識を有し居る者がある、之を何人とも問へば即ち首府若しくは都市を據つて居る所の人々である、是に於て余は如上の希望を實現する爲めに、國民に諒解せしむる、尤も寧ろ市民に諒解を求めた方が、或は早く達成せしむるべくと自覺するに至つたのである。

加之既に前段に述べた如く、我東京市は現代文明の日本の中心であつて、且つ日本の「デモクラシー」及び「オートノミー」の多幸なる生活の中心である、而して日本全國中東京市を置つて他に之を

此敬すへきものなきを思ひ、余の懐抱する調査機關設置の意見か、此東京市民の賢明なる考へ慮に依つて一日も速に實現せられんことを望むのである

余が就任の覺悟

余は旦暮も言ふ如く、「テモクラシー」と「オートノミー」の中心たる我東京市を以て自治の大學校と思ひ、考し就ては之に入學を決心した方である、余の先任者としては余等の先輩若くは尊敬すべき各市長が居られたことである、世上種々の批評や非難もあるが、所謂罔目八目の

議論で、多少市政に悪い缺點もあるが、親しく内部に入つて見れば必や良き所もあるに相違あるまい、一体東京市は大馬鹿者と大慥巧者との寄合場所である、故にありし世間で言ふ如き悪い事計りあつたのではなからう、信じて此處に来て見たのである、所が山豆の圈らしくや所謂自治の真髓なるものゝまた出合はなかつたのである、係しめす出合やに違ひないとして期待し、余は之を望んで居るのである、若し係なから以上指摘したる諸点即ち東京市は底無し代であるとか、聯絡を缺いて居るとか

統一かないとか、浪費たとか言つた点に對して、それは虚構の言だ、事實相違たと言する人かあつたなら、余は一々余の言の誤らざるを立証するべき的確なる資料を有してゐるが、肝つていゝ直と爲す者を憎むと云ふ古人の誠の如く余として甚た面白くないことであるから、之を言明することは避けたいと思ふ、係し其一斑を挙げ識者として全豹を懐くに難からざるものを示したいと考へる

社會局に就いて

最近東京市で新設された道路局と社會

三六

局に就いて言ふところは、社會局に於ては道路局の砂利事件の如きことは記さないけれども、其行政上の執務の乱脈なるに至つては、決して局其物に新設に係るが故に諸事務の頓せすとの理由を以て糸解の辞となすを得ないものである、大体其出發点から、其経路から又た其事務進行に必要な機關運用の上から此文明の点が多くあるを遺憾とするものである、

茲に其一例を挙げれば遊興税を徴収し之に依つて社會事業を行ふことになつてゐる、

三三
係し斯の如き旗幟を立てて社会事業を行ふことは、果して市民の道義と高尚なる人道上の觀念を向上せしむるに達せしむる所以の道であらうか、試みに反問せん。
若し遊興者の域に止り又は絶無となつて、社会事業に充つべき財源も亦減少せしむるは絶無となつたとするは、社会局は其社会事業を縮小又は全廢するのてあるか、果して然らば是れ東京市民を侮辱するものではないか、而して之を以て侮辱せられたと思はない東京市民も亦慚むべきものではないか、是に於て

三三
余は東京市民の名譽の侮辱せられたるに對て之か回復を圖らんとするものである、而して東京市民も余の所説に對して反對するや賛成するやを見よ、其道義觀念を測るの尺度となさんと欲するのてある、

社会局は其出費の兵に於て如上の諸利がある、其他文書の整理に付いても、出納會計の経路に徴しても遺憾の甚か多し、而して義捐寄附金に仰いた所のものか、義捐者寄附者のものと思ふ者あるに至つては、社会局自ずから人道道義を破るものではないかと

思ふのである、其實例を舉げんとするときは
多々あるのである、社会局なるものは社会
局の出入商人に向つて慈善若くは博愛
の意義を實行すべきものではない、余は
此一言を以て其全、服を掩はんとするのである、
而して其出入商人は社会局に奉職する所の
吏員は有力者の養育院を形成する爲めに
設立したものでないかと人を疑はしめる
のである、而して之を廓清せんといふは
同じく是れ有力者の系統を討伐するもの
なり撲滅するものなりと叫ぶに至つては

三九

平

禁付の狗竟ふ吠ゆるの感がある、
抑々社会局は新設の機關なるが故に幾
くとも良い組織が出来た筈である、昔に因
らるる現代式の良いものか出来る筈である、
然るに唯西洋の模倣を爲すに止つて新智
識を加ふる泉の如きものかないから、其仕
事の見るべきものなきのみならず、東京府
のそれと競争するに止まるのである、而して此
背官廳の東京府も此種の智識に欠乏
することは天下無難である、然らば其上の監
督官廳たる内務省は如何と言ふと、是亦

以て此能力の劣れるものなることを明言するに
憚らぬのである、若し夫れ内務大臣が茲に
来たあらば一々余は其点々を指摘する
ことが出来るのである、余は敢て斯る事を
唱つて其有力を誇るものではないが、悩む
べき状況に在る市民の爲に其極端を叩いて盡
くさなければならぬ悲慘なる境遇に余
自身が立つて居るから、敢て之を言ふので
ある、孔子の所謂
實に己むを得やうに出づるのである、敢ては
余の心事を諒とせられたい、

道路局に就いて

次は道路局の事である、是亦新設の局である、余が就任の當初、道路局長曰く先づ閣下來つて茲に事を爲さんとすれば改善改革を企てなければならぬ、其改善改革の初めとして此腐敗したる形勢を一掃しなければならぬから罷免休職は固より已むを得ざるものである、而して是れが實行を完からしめんか厚めに先づ愧より之を勉むるのであると言つた、此言葉を聴いて

四十三

四十四

自分は驚いた、道路局は一体何う云ふことをして居るかと思つて視ると殆ど何もしてゐない、道路に對する智識もない、道路に關する調査研究の結果も職員も示し、共に與に協力して之を實行しやうと云ふ計画も何等存してゐない、況んや東京市に於ける諸般の道路材料に關し科學的調査研究を遂げたる「モデル」とが標本とか云ふが如きものは尚更何處にも無い、是が矢張底無

袋子金を詰めるのも同じ事であつて、而かも此間隙に乗じて悪事を逞うする所の不正の徒が跋扈する所以と成つたのである。

市民に要する了解

其他水道は於ても電氣は於ても下水は於ても、毫も市民をしる了解せしむべき措置は何も無い、其他一人の家族生活に應用すべき機械の精粗を示すものがあるか、又所謂危険防衛の注意の粗密を示

四十五

四十六
すものがあるかと云ふと、何も無いのである、市民と交渉の仕事をして居り、又文化機関と交渉の事業をしる居る、斯う云ふ事であつたのである、是れ又市民の側から言へば水道を使ふにも、道路を掃除するにも、下水を疏通するにも、電車の昇降するにも遺憾の無いが多い、電車の如き交通上何う云ふ危険があつて、どう云ふ損害が各自に来るか云ふが如きことは至

つては、何等注意する所はないのである。自分が不注意であつても自分は損失が来ないもの、多少の妨げさうでもやつても自分さへ良ければそれで良い、妨げた報ひは自分に来るものであると云ふことを市民は知らしむる方法は執つてゐない、而も職員は昔の民は由らしむべし知らしむべからずであるが、今はさう云ふ時代ではないと言ひながら矢張り知らしめやうとはしくゑないのである。

る。

其他市役所の物品購入に就いて如何なる事が行われて居るか、之を思ひ出すたゞ嘔吐を催さずのである。必ずや我高向なる指導的市民は思ひ半又過ぐるものがあるらうと考へるから茲に差控へることとする。但し言へば余はいつても言ふのである、決して余は虚構の言を吐くものではないこととを表明して置くのである。

名譽職と小學教員

次は小學校の事、子付いて二三述べ
て置かねばならぬところがある、實
際教員中の或者は授業よりも市
の名譽職を訪問して其知遇を辱
うすること、苦心してゐる、而して市
の或名譽職の如き、學校の事は尽力
するのは誠に結構、は相違ないが
係し公費を以て設立したる小學校
の教員を、は自己の家庭教師の
やうに心得てゐる者がある、さう

四十九

五十

して其名譽職に在る人は教員に恩
を賣り自己の子供の試験点数を
多くして貰ふことを希望してゐる、
同時に教員等は名譽職に在る人
の覚え目出度からんことを欲し、之
に因つて何物が得る所あらんこと
を企圖して居る者も多數の教員
中には往々あるのである、現に先般
余は市内二百人の男女教員を招い
て話をした時、其席上、は於て或
教員は此等の事實の現存すること

を告げ非常に憤慨してゐた者もある。左位である、之を以て見るも如何に名譽職と教員間に情実の纏綿甚たしきものあるかを推知し得るのである、若し其裏面に入つて其間に存在する所の禍根や、又は其間隙に乘ずる所の悪魔は如何なる事をするかを考へたならば實に寒心し堪へないのである、尚ほ小學校の事は就ては後段に述ぶることとする、

人の任免に関する方針と所見

然らば此市政全般の改善を如何にして圖るか、一も金、二も金、三も金と昔からよく言ふ語であるが、余は從來より一も人、二も人、三も亦人と主張して居るのである、諸人となれば即ち任免の一事に到着するのである、是れは何人も推測し難からぬことである、自分は市長に就職したならば、然此問題に逢着すると覺悟してゐた、併し人の任免黜陟は冷静に考へてやるべきものであることも無

論考へてゐた、但し或者は人相知るに至れば情誼自ら其間子生じ、任免の如きは断行し得らるべきものでないから、早く断行しななければいけぬと注意した者もあつた、併し余は考へたのである、蓋し斯の如き言を爲す人け情實纏綿の間子生長しく、此間子理路を求め所謂理性子随つて事物を裁断することとを不可能であると自覺した人である、故に情實子囚まれず理性の命ずる所子随つて裁

断し得る自信のあるものは徒らに事を急いで玉石共に碎くか如き輕率子出で、はならぬ、況んや人情より論いても失職者を作ることは忍びない所である、と斯様子余は考へてゐた、所が一方は之に反して盛んに改革の一法として免職休職の一日も速に断行すべきことを希望し、且つ之を以て痛快事なりと思つてゐた者もあつた、そこで新聞でも針小棒

大子報道して鈍を揮ふなどと書いたものもあつた、成程鈍の必要であらうが、鈍の升ではいけない、小刀も必要である、又左綿も必要である、先の第一に本人の能否を見、執務の方法を見る間、一目して半身不随のもの、一部麻痺のもの、歩行困難なるもの、活動不能なるもの等が映じて来るのである、けれども直ちに之を處分することは成るべく避けなければならぬから、皮下注射や電氣療

法や「マツサージ」を試みて仮令跛を引いてゆ一日子相當の里程を歩行し得る者ならば、其職に從事せしめて往くやうよしななければならぬと云ふ考を持つて居つた、之を見て緩漫なりとして焦躁あどかしがつた者もあつたが、さうしたものではないと自分
は考へてゐた、
所が茲に不幸として司法問題が發生して来た、其影響として仮令刑事関係に座せざるも、自分の責

任を重んじて職を辞する者がある
に至つたのであつた、けれども自分
は固より市長に爲る考で運動し
たので、何でもないから、又其缺
員を補充する心當りの人は富んで
ゐる譯でもない、從來官僚として國
務に従事して居つた關係上、其範
圍に於ては多少人を識つて居るが、國
務の範圍を去つて自治の範圍に入
つたとき、其自治向きの人を得るに
五十七 困難を感じたのである、勿論官僚系

五十八

中の人には於ても現代的の智識に富み、
且つ自治に就いて余と同じく興味を
有する人は澤山あるが、其人一人で
進退を決することの出来ない者も
ある、朋友もあり親戚もあつて、そ
れ等の人々が総て本人と同一意見に
到達し、市民の利害に關して努力
奮勵せよと勧誘すべく決心する
迄に至らぬものもある、殊に現んや
市には第一流の商人は市役所の門
に入るべからずと去ふ旗を立て、あ

る位であつて、市は腐敗の廳舎で、此
門子入ることは汚泥を以て讀さる、
ものである、白衣白色を以て塗炭
に座するか如き意味がある爲めに、
親戚朋友中、子は本人の就職を引留
むる者が多い、是れ補充の手間取
る所以であるが、其人達の憂慮も
無理のない事である、併し此一事を
以てしても、將來東京市に對する
此疑懼の念を一掃し氣分を新たな
五十九らしめて、市の吏員となつて自治の爲

六十
めは竭くすことは矢張義勇奉公
の一端であると言ふ了解を得る
に至らしめなければ、自治の前途も
蓋し遼遠であると言ふねばなら
ぬ、

健全なる市役所氣質の養成

斯の如き次第で官僚より、或は地方より轉任せしめて任命を餘儀なくする立場に余は置かれたのであるが、併し今日迄と雖も東京市に於て仕事をした者は全然官僚でもなく、又地方に居た者でもなく、生粋の江戸見のみであつたかと言ふと決してさうではなかつたのである、敢て江戸見は皆な無能であるとは言えない、前段述べたる如く東京市民の望む所深く具つたものがある

辛一 のであるが、右の如き始末で市の吏員を採用し

主な切つたのである、故に採用せざりしが爲めに市民の重きを措かざるものなりと言ひ做さんとするは僻事である、

一体どうすれば人が活きて働くかを考へて其方法を講ずることは、官僚に於て上長官として非常に功德であると同しく、自治体に於ても亦然りと思考するものである、そこで市吏員をして最も有効に働かしむるに就ては、先づ以て健全なる市役所に氣質かたぎなるものが出来上る迄にしなければならぬ、尤も今の市役所氣質を市民全体が見て、

彼は市役所へ奉職して居つた人物であるから、自分の店へ来てほしいとか自分の會社銀行へ来てほしいとか云ふが如き觀念が起るか起らないかは茲に説明を要しない位であるが、小者用人と雖も彼は市役所へ居つたから手堅いであらう、俺の店へ使ふうと云ふ事に信用を得せしむることは大なる問題でありぬばならぬ、市役所を出されたら翌日から引請け手のないやうな市役所であつては、市役所として人を使ふ道を知らぬものである、余は勇つて台湾へ在

ゐつて部下の氣風を變化せしめた經驗上、市役所の吏員の氣質を一新せしめられない譯はないと云ふ確信を持つてゐる、又た余は錢道に居つたこともあるが、現に鐵道から出た人で飯が食へないで困つて居ると云ふ人はなかつたのである、然るに今の市役所のやうに罷められた者は使えない方が徳である、と云ふ觀念を一般へ與へるのは、市役所の使ひ方が間違つて居る、又た使ふ多く者が小者用人ならば吉原遊廓へ奉公へ往つたのと同様で堅氣の家では使ふのを嫌ふ

のである、是れでは使ふ方の市役所は人を使ふ上り於て罪惡を犯すものであり、使ふべき者は少々給金が高くても結局一生の損害である、故に余は此空氣を改善することは非常に使ふべき者に金儲けをさせてやることゝなると思つてゐる

市役所の腐敗した空氣の一斑を茲に指示すると、市の出入商人、其鉄商がある、此者は或鉄の棒を十何錢で納めて居る、然るに市村岡平衛門氏からは僅に二十何錢で納めて居る、而も前者は保證金を取られてゐない、

又拘らず後者は之を取られてゐる、所が森岡商店のは納入期限が達した為めに罰金を取られてゐる、斯う云ふ遣り口である、蓋し斯う如き惡氣流の中で育つた吏員は將來如何なる人物となるであらうか、實に空恐ろしい、次ぎであるまいか、

而して一般の空氣が斯うした腐敗に充ちて居るが爲めに眞面目に正當な勤務して居る者までが玉石混淆で、痛くない腹を搜られる結果となる、其損害は實に大なるものである、是は獨り吏員のみではなから、或市會議員の

如きは低級取るに足らざる捏造説、冒され
て自分の市長の嫌疑を掛けることにならるゝ
市會議員亦疑を受け、換事が縛るのは當
り前でないか

實に現在の市役所は低級なる低能者がやつた
事、賢明なる市會議員までが魅せられて
了つたと云ふのも、健全なる市會氣質、健
全なる市役所氣質なるものが存せざるの結
果である、若し市會として、市役所として正
當なる健全なる氣質、氣風が存立して居つ
たならば、現に目撃するが如き不祥事は決

て起らなかつたと思ふのである、

それで金は市の公事に對しては、其養成所
を捲えなければならんと考へるのである、是
は年来獨逸の施した所であつたが、最近亞
米利加が最も之の力を盡くしてゐる、

即ち茲に示す所の紐育市政調査會の設
備の如きも之の外ならぬのである

(紐育市政調査會設備材料入り)

小學校職員の進退、就いて

前段小學校の事、就いては更に述べべきことを一言、して置いた、仍て茲に説くこととする
先づ市内二百人の男女教員と會合し、其後

市長は無造作に教員を罷免したとか校長を貶めたとか傳ふ者もあるが、決して余は無造作に斯る事をしてゐない積りである、曩も言ふ如く人を罷免することは其當人に取つては一大事である、故に局部麻酔を以て居つても電気療法、注射治療、温泉療法を加へて跛を引きなぐつても普通通の行程の歩ける者は其職に留つて貰ひたいと云ふ心懸は失なかつたのである

七十一 所が地方から来た者は學力があつても東京の小學教員には成れないと言ふ者がある、

七十二 さう云ふ者があるならば其言ふこともないと思ふ、東京慣れた小學校教員が果していつ迄用達つかと云ふことも考へて見なければならぬ、随つて小學教員も新造修繕と言つては失禮かも知らぬが、確に養成と講習の場が必要である、養成は師範と學校に一任して良いが、講習は別に市が採えた物でなければ監督が出来ない、その色往かなければ現代的方法でないと考へてゐる、

次に余が市に入つて、市が二部教授撤廃と言

心して居る事、小學校の増設の二部教授撤
廢の解決の鍵であることを知つた同時に「バラ
ック」と不燃質建築物との經濟關係、就
き、又は兒童の衛生的關係、就き調査研
究の徵すべきものがないのみならず、之に
關する委負等も出来てゐないことを知つた、
そこで余は都市研究會の同人として尊敬し
又た市の顧問として聘した所の佐野工學
博士、此事を質して見ると、博士は夙に其
邊の事に著眼して居られたので、其説を
聴くと竊に余の懷抱して居つた意見と

七十三

七十四 一致したことを著見した、目下學術的に余
の著想を有效ならしむることについて博士
の助力を煩わしつゝあるのである、

小學校の建築、就いて

其大要を述べて見ると「バラック」の建築費に二
三十年後の修繕費、其他の經費を加算した
ものと、鉄筋混凝土若くは其他の不燃質
物の建築費と比較すればどう云ふことに
なるかと言へば、前者よりは後者の方が大
なる利益がありやうだと云ふことが分り
掛つて来た、それは分つたが、儲收容兒童

の数を千人とするか千五百人とするか、而して之に要するの教員を何名、補助教員を何名とするか、やうして教場を一階二階三階四階、教員の宿舎を造ることにたればどうなるか、小學校教員生活の完全なる大成を図るに就いて如何、すれば良いか、又住宅改良の費用と相俟つて如何、すれば都市計画と並行するであらうかと云ふが如きことも現下の問題である、此等の問題を解決するわけでも調査し半々単位は掛るのである

七十五

余は市長となつてから後、四月は居蘇を飲んだ、それから流行感冒に罹つて三十日休んだ、五ヶ月の内二ヶ月計りは斯の如くして空しく費やした、併ながら幸い余の許には得易からざる助役が三人三位一助と成つて余を助けて呉れるので、漸く総ての調査が是れより出来る所である、此文珠の助けがなければ余は成佛は出来ない譯である、五ヶ月間無為の日を送る如く外間から見えるか知らぬが、内部に於ては實は焦心苦慮、大に将来市政に貢獻すべく腹

七十六

立をしてゐるものである。飢へたる者は食を搦
まずと云ふが、或ら東京市民が自治の効果
の過去、移り移りに飢へる、余は市
民の保母役として半煮飯を薦める氣は
なれぬのである。況んや毒と知つては尚更
らである。願くは此邊の消息を諒とせられ
たい、調査研究の結果確乎たる成案だ
う得れば勇往邁進、市政の爲めに最善を盡
くす。於て遺漏なきことを心寄し期する
ものである。

七十七

市の經費問題

七十八 次は經費の問題である、東京市民が社會的
生活を完全とする爲めの經費、帝國の首
都として將又た世界の五大強國の一と列す
る帝國の首府として名實共に恥しからざ
る施設經營を完うする爲めの經費、之を
計算すると約十一億圓計りとなる其
科目は大要たの如くである

(豫算科目記入)

前記の科目中、既に著手せるものゝを將來に
繼續して進行すべきものもあり、又未
著手せるものが尙多し是れより直ちに著手す
べきものもある、又初め定むる所、依つて
強制せられて居るものもある、之を合算
すると五千萬圓を下らない、

現在一億三千萬圓の豫算を提案して居る
から之を合計すると一億八千萬圓若くは
二億圓となる、此經費を以て今後約十年
間進むに非らねば余の理想とせる多幸
なる市民生活を完うすることゝ出来ず、又た

八十日本國民として完全なる首府を造り世界
の強國民を此處に優待することも出来
ぬ始末である、

浪費政策改善の一步

次に重要な問題は税法である、重要問題の
第一は人であるが之に亞ぐものは金即ち税
法でなければならぬ、此税法に付いても矢
張一方は學者の組織的研究を要し、他
方は實際家の研究を要するのである、
而してあらゆる建設物に關する所のもの
も亦科學的研究即ち理化學の考查を経

なければならぬものもある、而して此事は常に制度に渉るを以て矢張り自治行政の専門家を要する、都市に於ける至難なる問題中又は社会問題を含むが故に社会学者の攻実も俟たなければならぬことがある、斯の如くして衆智衆能を集め其得た所のものも大成することが必要である、是より程か「オルガニザチオン」即ち編成が極めて必要と成つて来るのである、

然るに顧みて市の現状を見ると、科学的職務の人なく、「オルガニザチオン」又缺くる所がある、

八十二、底無し袋はいつ金を以て詰まるであらうか、実に啞然たらくするを得ないのである、併し若し人あつて底無し袋の底を作る、左様な手段を執ることは不服である、人物も要らぬ、編成も要らぬと云ふ説を為す者があつたならば、それは現代的世界に於ける新發明である、余は就いて教を請ふんと欲するものである、

現に紐育に於ては曰叢「一言する如く、十年前より有力者の協力に依つて成つた所の

Building of Municipal Research

と称する調査機関があつて、當り紐育市の
の爲めのみならず其他の都市の爲めにも調
査の勞を執つてゐる、又た國としては大戦
後、米國に於ても亞米利加科學的調査
機關を設けたと云ふことが、四月二日の國
民新聞に掲載されてあつたやうな記事
である、故に此種の設備に缺くる所があつ
たならば所謂戰勝國も戰敗國の後塵を
拝せねばならぬことになる、而して東京
市の現状は如何と言へば隨分論者其人に
乏しからぬが、其論ずる所のものは時代錯

盆 誤を咎もろに急且つ詳しき拘らず、斯る
点に於いて設備なきこと、其設備の必要
なること等を一言する人がないのは、市民
の取つて幸福なりや不幸なりや判断
の甚むのである、唯徒らに權利と義務と
かを歎々するのは寧ろ余は閑散の遊戲
であるまいかと思ふのである、
その中で斯の如き機關の指示する所に従つて
浪費政策を改め、十一億圓を最も有利
有効に使用する途を講じなければならぬ
と考へる、

市の財源問題

諸十一億圓の中にも道路の如きは約
五千万圓と算して居るが、これ七
八千万圓は掛るやうである、之は給
料を入れなければ結局一億圓の仕
事である、

市内の橋梁は永代を初めとして電
車の通行せるものは、いつ迄市民は
安心して通過が出来ると思つて居る
であらうか、電車は日々重い物を
載せて引つ切りなしに通つてゐる、

今の儘で放任して置いては市民は
交通上地獄の穴を掘つて其中に
落込むことを知らぬものである、
何事が起つたとき騒ぎ立てても跡
の糸である、當局者も其時が来る
迄打捨て置いて構わないと云ふ筋合
ひのものではない、
然らば道路と橋梁を東京市の負
担とするに付いて其財源を何處に
求むべきか、交通税の二百万圓を市
に下附せられんことを望まねばな

うぬとか、其他市の二千何百万坪の
地面の中で、殆ど其半は陸海軍
を初め官有地である、之を交附して
貰ふとか、富豪の持つて居るもの
を開放して貰ふとか云ふやうな單
純な事を以て之を處理する譯は往
かないが、之を適當に處理して國家
と共に自治体の幸福を増進し、又
國家をして相當の施設を爲さしむ
ることが必要ではなからうか、茲に
東京府なるものがある、是は官廳

父である、東京市なるものがある、是は
自治體である、然るに東京市民の負
担する所のものは東京府の歳出二
千万円の中千六百万円である、而して
之を市自体の負担と合算すると市
民は五千万乃至六千万円の負担をし
てゐることとなる、是れ固より東京
市民として負担の最大限度ではな
いのである、倂なから或一部の國は
従つて見ると最大限の負担をして居
るのであるまいかと云ふ感も起るの

である。但し大阪市民は比較すれば東京市民は負担が一四十兆丈に輕くなつてゐる、故に若し東京市民の負担を大阪市民と同等の割合にすれば二百萬円の金が出来ると、それで五歩利公債を募るとすれば、數くも一千万円、ピットの重利法で返還すると頗る巨額なる公債を募つて還すことの出来る餘力がある、斯う云ふこともあるから直ぐに實行を取拂ふにたうば良きさうなものである。

九十

か、併しさう云ふことをするやう場當りの政治家はいかぬのである、なせいかぬか、それは即ち根本的の調査研究をして、此餘力二百万円を以て一千万円として使ふか良いか悪いかを考へなければならぬ、余は他は税源を攻究してゐるが、今それを述ぶる機會でないけれども、兎に角東京市民が十億や十五億の負担に堪へないといふ論することは市民を侮辱するものである、同時に其負担を以て将来

吾々の子孫の幸福を増進する如き計画を立て得ないならば、是れ市の當局の責任であり、罪惡である、若しそれ計画甚宜しきを得ずして更に浪費政策を陷つたならば尚更重大罪惡である、斯う云ふこととなるのである、

九十一
是は市民諸君と共に大に考慮を要すべき問題であつて、此問題が暮月の間、解決が附くならば寧ろ奇蹟である、要するは道路橋梁の例を

九十二

取つて前段述べたる如く、之れがあるに一億円の経費を要するならば、其財源を何れに仰ぐか、公債と并の法に拘るとすれば幾らの財源があれば幾らの公債が募集し得らるか、深思熟慮を費やさすべき否か、諸方面は多々あるのである、若し之れを其日暮らしで何日間かを面白お可笑しくやつて行く丈りのことならば、別に心配も無用である、尚ほ之を就いては市民諸君の

指導階級に在る諸賢の御意見を大体伺つて、さうして細目も決つては大に討議を凝らして実行したいと云ふことと今成つて居るのである、

糞尿の処分は就いて尚ほ速ふべき事は多々あるが、最後糞尿問題が盛ん論ぜられて居るから、之を就いて一言を説きたい、市は曩に三百七十一万円を投じ三ヶ年計画で硫酸安母尼亞製造所を造り之に依つて市の一部の糞尿の始末を

附けることと成つて居つた、之を新市長が来て撤回した。就ては之に代るべき何か大々的の良いいのか三十日を出ておして現われさうなものだと考へて居つたが未だ實現しない、今も夏も成つたら大変ではないか、市長何をしてゐると云ふのか市民一部の議論である、

他の一部は硫酸安母尼亞も何もない、今自宅の廁が悶へてゐる、共同便所が不潔だ、都門の玄関口とも云ふべき

各停車場の便所さへ不体裁極まること
になつてゐる、

理窟はいつでも良いから早く始末
して呉れと云ふ諦である、

係し硫酸安母尼亞製造の計画は仮
に完全なるものとしても三ヶ年先き
にたらねば用ゐるためである、それ
に硫酸安母尼亞の値段が一噸に付て
五百円したときと百五十円に下つた今
日とは市民の負担が大変に違ふ、又
左「ケミカル、プロセス」でやるから間

違ひないと思つても、それは幾通り
もある、市で計画せんとしたものゝ就
いて見ても機械學者、熱學者、化學者
等が一致團結して攻究した様子かな
い、余は此人達と別々で逢つて聴いて
見ると自分は知らぬ私は存せぬと言つて
ゐる、斯の如き調査の練れを居らな
いものを採つて、責任を以て実行に
着手の出来るものが出来ぬものか
一考する道もないことである、石炭
は幾らの「カロリー」のもので金を焚

ければどうなるかと云ふ計算もさへも明
かになつてゐないのである、一噸五
百円台の硫酸安母尼亜が百円台以下
落しなないとしても、現計画の通りとし
て下谷溪草子對して實行するわけ
で此損失が七十万円である、兎んや百円
台以下落しなすれば其損失は愈
々増大する次第であるが、さう云ふこ
とを責任ある者がやれるが、やれな
いかと云ふことも考へないで、撤回不
可を論ずるのは是亦閑散の遊戲

と評するの外はない、
それを根本的解決法と就ては矢張
科學的調査研究を経た上で決定
すべきことで、數年なくとも二年を費
やし、相當の組織機關を以て慎重
に研究しなければ輕率に看する
ことは出来ないと考え、

應急策

根本的解決法は以上の通りであるが、
應急策としては汲取法を完全にする
より外はないのである、然るに農

家子於ては人造肥料の使用が盛んになつて来たのと、農家の急業と、又中要の應じて幾らをも金が取れるので焦せる氣味の無い爲めに、此取取り運搬の事が従前の如く爲す能わざるに至つたのである、係ながら斯の如き事態の終で推移して往くと東京在住の市民は非常な痛苦に陥るが、年來の慣習と改善生活との間の激変に處して、生活困難の種子を農家に生ぜしめざることを農家に勸

九十九

百

告する途がありさうなものである、此等の事は努めて其方法を講じ双方に完全なる諒解を得たいものであると云ふことを日夜苦心して居る次第である、

是が糞尿處分に対する大目であつて要するは今日は應急策を一刻も早く實行し、根本策は専門家の調査研究を俟つて着手する考である、

糞尿問題に關する一奇縁

茲に餘談に涉ることであるか余は三

十有餘年を隔て、東京市の糞尿問題に函び逢着するのは奇縁と考へる、

明治十六年子余は名古屋より東京に轉任して来て内務省衛生局に奉職して居つた、所が虎列刺流行の爲めに東京の下水の關係、糞尿の關係に付いて端なく攻究することとなつたが、其當時東京府衛生課長長谷川泰君は余の友人として又先輩であつたので、同君と諮つて糞尿の

百一

百二

調べをした、塵埃の調べをした、所が糞尿五十万円、塵埃二十万円の價格がある、就中塵埃其物の値段よりは其中に色々良い物が混つて居つた、最近聴く所は依ると塵埃の性質が悪くなつたと云ふことであるが是は生活状態が窮迫して来た爲めに捨てるとき注意する結果である、鬼は角其當時糞尿が七十万貫あつた、そこで之を以て東京の下水改良費に充つた後、

長谷川君の助力を得て一つの成案を作
つたのである、それでは之を提案しやう
と云ふとき、沼間守一君が聴込んで
非常な反對をした、市中の差配人の歳
晩の餅搗を中止すると云ふことは残
酷なことである、既得の権利を害す
るもので容易ならぬ事である、それ
ならば地主家主の負担とすれば良
いではないか、斯う云ふのが自分等
の主張であつた、それが永久に差配
人の所有たるべきものであるし、地主

家主の所有たるべきものであるし
て、却て之が爲め、市民が苦むこと
もあるから、今よしてやらなければ
いかぬと云ふことを主張して非常に
急迫の勢ひを以て時の局長長興
専齋氏を苦めたものである、長興
先生は自分に命ずるにもう少し寛
やかにせぬかと云ふことであつた、
それで長谷川泰君を招んで後藤の説
き餘り急激にやると云ふと騒動を
起すから、どうか君からさう云ふ風子

言つて世に其いふと言つた、長谷川君大に怒つた、其時之に加勢したものは福澤諭吉先生であつた、先少は長共先生の無二の朋友である、拘う、長共衛少局長の唱ふる所とは反對の意見をもつて、長共はあつた、言ふが遣り給へ、詔間が反對を唱へても僕が新聞で君は加勢するからと言ふれ、其當時福澤先生は時事新報の主筆であつた、今から考へると三十八年も昔の語であるが、

百五

百六

さう云ふ事もあつたのである、

結論

斯う云ふ譯のもので、糞尿問題は昔からなや、至難の問題である、學者の説を聴くと熱をもつて之を處理するか、「バクテリア」を以て之を處理するか、化學的作用を以て處理するか、の三つある、プロセスは何れもしても良いけれども、之を實行するに付いては經濟の問題が之に伴ふ、得ない、容易な事ではない、且

つ自天気の爲めに作業地附近の者は
迷惑をすするから、是亦考へてやらな
ければ本當の個人の文明的生活の安
定を得る愉快なる生存を爲すこ
とが出来ない、此處が苦心の存する所
で、余は三十餘年前から多岐の関
係があり考へ慮を盡して居る譯であ
るから、自分は市民の爲めに對するに
付いて其親切と熱心は決して人後
に落るやうなことはない積りである、
余の知人中此問題を解決するものは斯

くするより外は途はないと言つて照
會して来る人もあるが、或る政治家
がルソーの民約説を讀んで天下
是より外は政治哲學はないと言つ
て氣狂ひの如くなつたと同じく、取捨
撰擇を誤つては大間違ひである、
故に此問題の如きも慎重なる調査
研究を加へた上でなければ一朝一夕
に決定し得べきものではないのであ
る、

其他橋梁、道路、地下埋藏物、水道

下水、築港、住宅、交通、地下鉄道、電車、
運河の問題等算へ来れば枚挙に
遑まないが、如上の方針に依つて調査
を進め、實行に移り、以て市民の福
祉を増進し、之に依つて文化的生活の
幸福なる安定を得せしむるに就い
て、最善の努力を爲す覺悟であ
る、冀くは余の微衷の存する所を
諒とせられんことを望むものである

(了)

(大正十年四月九日)

